

能登半島地震のオンライン再診による地域医療再生

NTTドコモ ヘルスケアサービス部 古屋大和

能登半島地震における「オンライン再診」とは

オンライン診療の提供を通して
被災地を離れて避難された方々と被災地の医師のつながりを離れた環境でも維持させ
避難した方々が被災地で医療を継続させている医師・薬剤師のいる能登地域へ
あんしんして帰って来られる地域づくりをすること



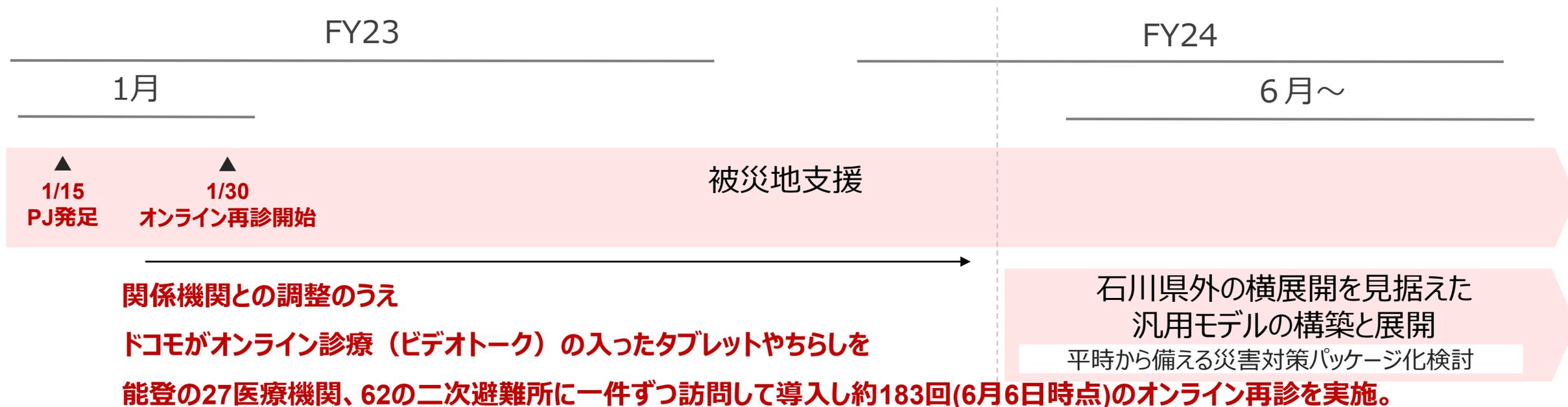
能登半島地震におけるオンライン再診の概要

課題

能登の医者と避難者のつながりが無くなると復興に向けて能登の医療が縮小する可能性あり

対策

石川県内の医療（能登の医者と避難者）をオンライン診療でつなぐ

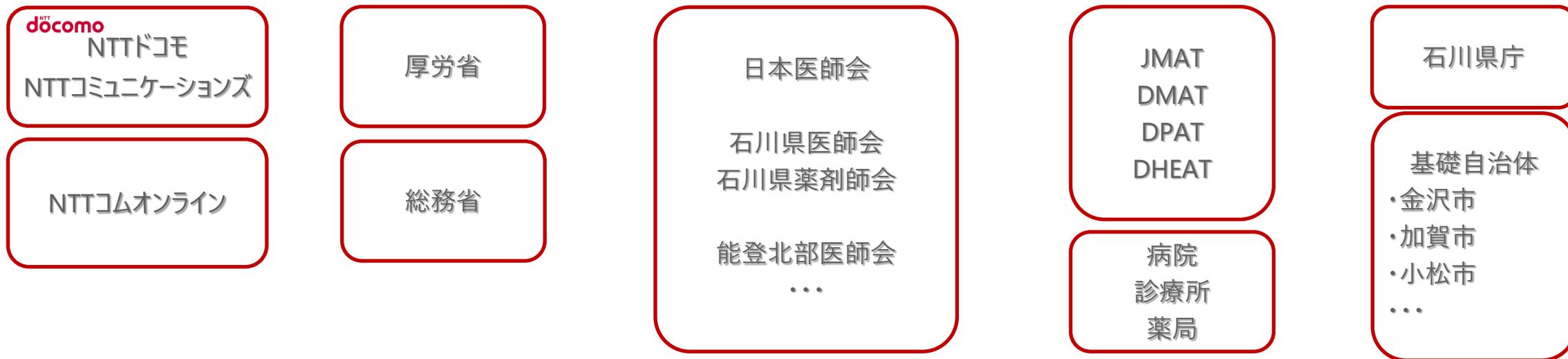


関係機関との調整のうえ

ドコモがオンライン診療（ビデオトーク）の入ったタブレットやちらしを

能登の27医療機関、62の二次避難所に一件ずつ訪問して導入し約183回(6月6日時点)のオンライン再診を実施。

1月15日に「能登半島地震のオンライン再診による地域医療再生PJ」を発足。
総務省、厚労省、石川県庁、石川県医師会、石川県薬剤師会、石川県JMAT本部、ドコモ等で考え、アジャイルで克服していき、被災地に合わせたオンライン診療を実現しました。



医療制度が足かせとなり医者がオンライン診療に取り掛かることが出来ない



厚労省よりいち早く医療を届けるべく規制緩和等実施、医師会と連携しドコモが各医療機関へ説明

事 務 連 絡
令和 6 年 1 月 12 日

各 都 道 府 県
保 健 所 設 置 市
特 別 区 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省医政局医事課

令和 6 年能登半島地震におけるオンライン診療を実施するための研修受講の
取扱いについて

今回の令和 6 年能登半島地震に関して、オンライン診療を実施するための研修受講に関し、
下記のとおりとするので、御了知の上、関係者への周知方お願いします。

記

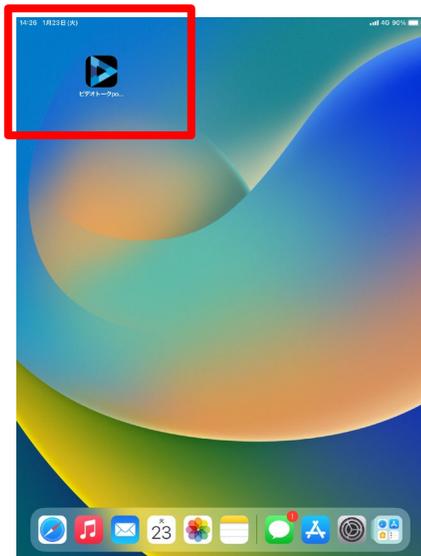
～本文抜粋～

オンライン診療を実施する医師は、厚生労働省が定める研修を受講しなければならないとされているところであるが、令和 6 年能登半島地震に対する非常時の対応として、患者又は医療機関等が被災したことにより通常の診療が困難な場合であって、被災地（災害救助法の適用対象市町村をいう。以下同じ）の医療機関に所属する医師又は被災地に派遣されている医師が速やかにオンライン診療を提供する必要がある場合には、**当該研修を受講していない医師であっても、オンライン診療を実施しても差し支えないこととする。**

アジャイルで被災地に合わせたオンライン診療を実現しました。
NTTドコモがオンライン再診を希望する診療所等に専用のタブレットを配布し、
NTTコムオンラインのオンライン診療のアプリ「ビデオトーク」を使用しました。
スマホであれば機種を問わず、**特別なアプリをインストールする必要はありません。**
簡易な操作で利用することが出来ます。

医療機関 操作

- ▶ タブレットのホーム画面で「ビデオトーク」をタップ



- ▶ 患者さまの電話番号を入力して「送信」をタップ

※電話番号の入力のみでご利用が可能です。

ビデオトーク [ビデオ通話状況] 0人利用中 / 最大100人

トークルームURL送信 (SMS) トークルームURLを発行し、SMS送信します。

通知手段 SMSで通知 メールで通知
 今は通知しない (URL発行のみ)

電話番号

メッセージ

ビデオURL挿入

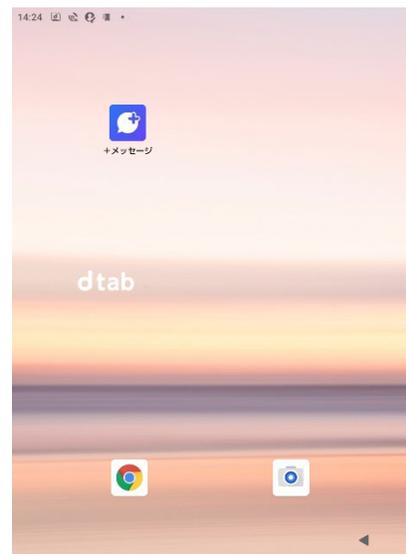
ルーム名

予約日時

トークルームオーナー

患者 操作

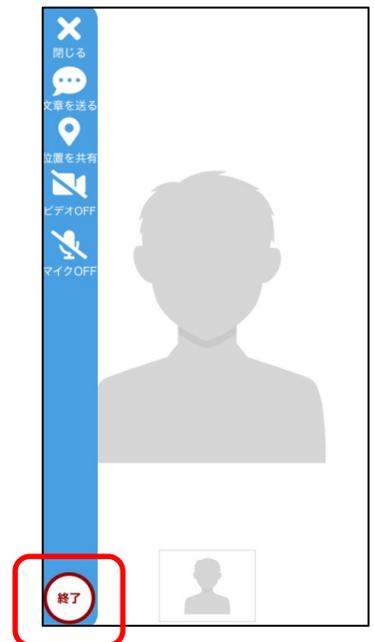
- ▶ SMS受信アプリ（「+メッセージ」等）をタップ



- ▶ URLリンクをタップ



- ▶ 「終了」をタップ



一連の操作はスマホに慣れていない方であればさほど難しいものではないですが、スマホを持っていない方やスマホの操作に慣れていないご高齢の方も多く避難されておりましたので、ドコモショップにおけるフォローおよび避難所の保健師にフォローをお願いしました。（実態は問合せ無し）



石川県内の全ドコモショップ来店者に対して、オンライン再診のサポートが受けられる体制を構築しました。

ドコモショップで受けられるサポート

- ・オンライン再診が受けられる医療機関の確認
- ・オンライン再診の受診の仕方のデモ
- ・薬が受け取れる近隣薬局の確認

提供サービス内容（オプション）

セキュリティーを確保できない避難所への対策として、1か所の避難所に試験的に防音環境を備えたブースを設置しました



提供サービス内容（オプション）

固定回線が使えない二次避難所で処方箋の送受信を行うために
モバイル回線でFAXが使える仕組みを提供しています



固定回線が通っていない避難所・診療所等への支援の拡張 homeでんわ+モバイルファックス（処方箋受信・発行）

発災から二週間程度、能登エリア内でオンライン再診の需要がありましたが、提供することが出来ませんでした。

能登半島地震ではスピード感をもって体制の組成からオンライン再診の提供をしましたが、それでも1月30日の提供となり、提供に至りませんでした。



平時の医療を災害時、復興でも継続させるために

オンライン再診における「平時より災害に向けた備え」を以下にまとめます。

No.	災害に向けた備え	
1	平時からの利用	オンライン診療ができるタブレットを配備し、オンライン診療を平時から実施している状況を作っておき、発災直後オンライン診療のニーズが増えた際にすぐに利用できるようにしておく
2	発災後すぐに動き出すための平時からのつながり	発災直後、医療提供に必要なたくさんの関係者で組成できること、規制緩和の情報を素早く提供できるようにすることを目的に平時から発災時の体制を整備しておく オンライン診療をふだん活用していない避難者に対して端末操作のケア等をするために地域のドコモショップで備えをしておく

オンライン再診の提供だけでなく、地域の医療継続に向けた備えに伴走支援させていただきます。

その他、能登半島地震で取り組んでいる内容の共有

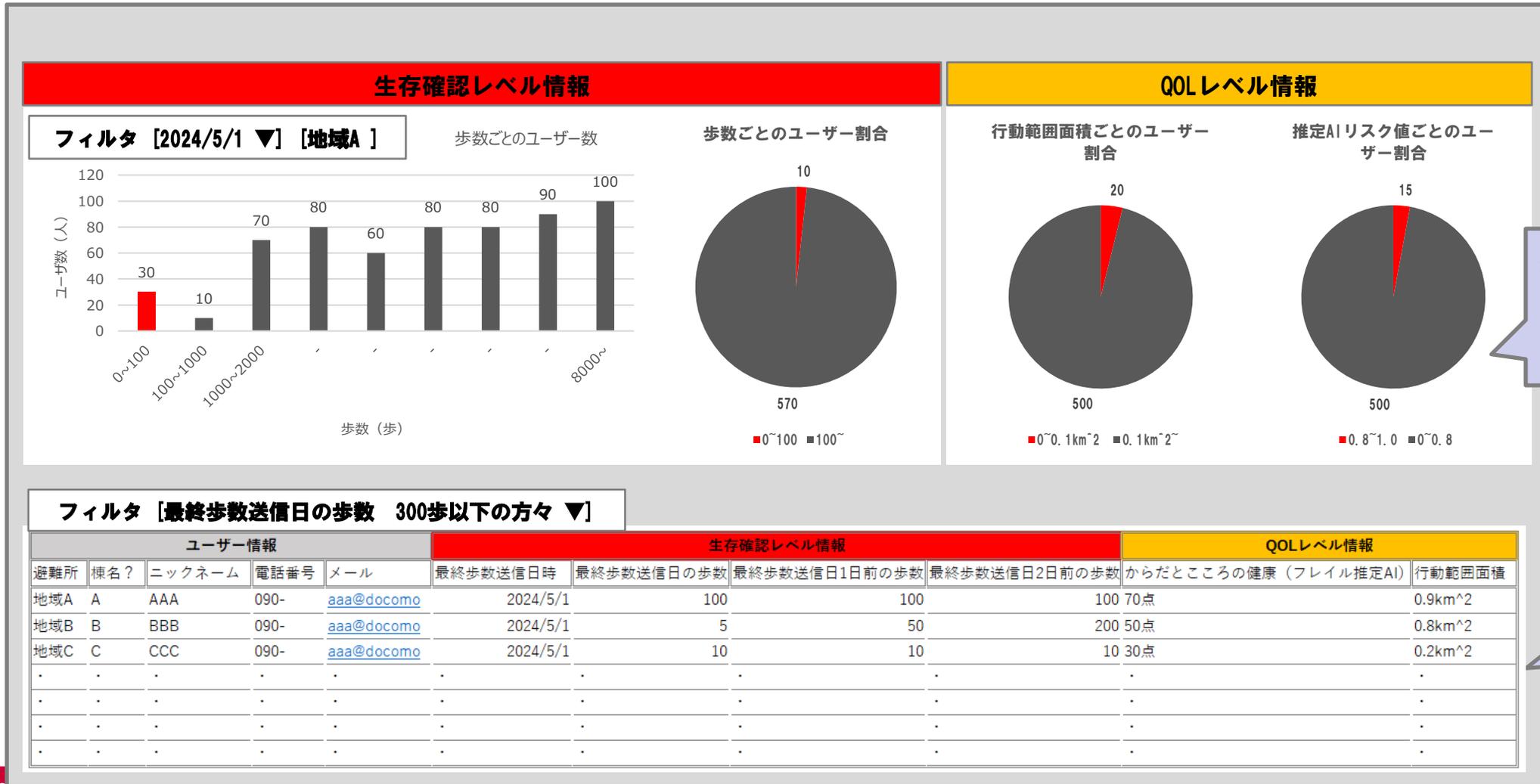
平時の健康増進・介護予防を発災時の災害関連死リスクの軽減へ

発災時に限られた人的資源で避難者全体のみまもりを行うことが出来ない。

そのため、災害関連死のリスクが高い方への人的資源を振り分けるダッシュボードを提供する。

平時：歩数計およびフレイル自動推定を行うアプリによる健康増進・介護予防

発災時：アプリを經由してスマホを持ち歩くだけで引きこもり状況、介護認定リスクの見える化



利用者情報グラフ

- ・生存確認レベル：歩数など
- ・QOLレベル：推定AIリスクなど

**みまもり対象者のリスト
対応要否の判断に活用**

平時のソーシャルフレイル予防を発災時の引きこもり防止へ

自身も被災者でありながらも、「社会を支える頼もしい現役シニア」として、地域運営を「支える側」として活躍を促す仕組みを提供。

平時：アプリで取得できる普段の生活から、地域のイベントをアプリで勧奨し、ソーシャルフレイル予防
発災時：自宅または仮設住宅に引きこもりにならないように人を外へ出す施策

①ふだんの生活状況より、親和性のあるお手伝いを募集している仕事を提案します。

ex) 食堂やカフェの配膳のお手伝い、カルチャー教室などの運営のお手伝い、施設のお掃除のお手伝い



②お手伝い後、QRコードを読み取ることでポイントやインセンティブを獲得できます。QRコードを読み取った結果から避難者の活動状況の把握に貢献します。

ex) 食堂の配膳のお手伝い⇒ビールプレゼント

< メニュー (マイページ)



9:41
< 二次元バーコード読み取り



平常時の健康づくりの接点機能を、発災時にその接点を活かした対策に活かす

平時

みまもり登録



家族や民生委員に位置情報や健康情報を共有可能
 発災時にも遠地の家族などが被災者の災害情報や居場所を確認することが可能。

発災時/避難後

避難所開設・混雑・物資情報



避難物資のラストワンマイルの問題や避難所の発生・閉鎖を掴めない

自治体だけでなく**住民が情報を共有**
 特に**不足物資なども共有**

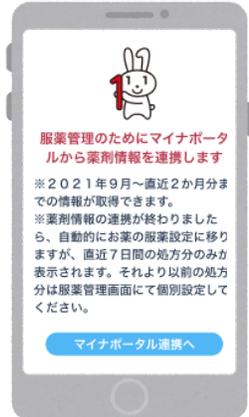
避難所チェックイン/逃げ遅れ



発災直後の逃げ遅れ候補の把握に時間がかかる

特定の避難所に長期滞在していると自動的にチェックイン
家族等への共有に加え、自治体等の**逃げ遅れの候補の把握に活用**

マイナポータル連携 服薬管理・健康管理



マイナポータルと連携して薬剤情報や健診情報を取得。

薬の飲み忘れ防止や健康増進に活用。

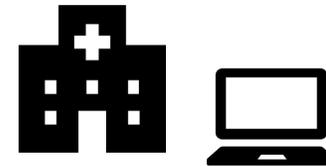
避難者の正確な当薬歴等をスムーズに共有（オンライン資格確認が出来ない場合の補助等）

避難所



マイナポータルから必要事項が転記された健康相談票を避難所で印刷可能。
 避難所がかわる度に同じヒアリングが無くなる。
 個人の記憶に頼る情報の低品質を解消。
避難者・保健師の負担減。

オンライン診療（かかりつけ医）



避難者が健康相談票をメンテ可能。
避難者がどのような状況かを把握可能。診療の品質向上および負担減。当薬歴を見た処方。

DMAT（被災地の診療）



目の前の被災者の状況をすぐに確認することが出来る。
避難者・医者（DMAT）の負担減。

避難者の正確な医療情報（病気の履歴、薬の服薬状況等）の品質が低い
 避難者が避難所を移る場合などにおいて、様々な場所で同じ情報収集のコミュニケーションがあり、現場の負荷や避難者の心的ストレスが高い



NTTドコモ ヘルスケアサービス部 古屋
yamato.furuya.zc@nttdocomo.com